

IBM InfoSphere Information Server
バージョン 11 リリース 3

**Cognos BI Reporting -
Content Manager ブリッジを
使用したメタデータの
インポート**



IBM InfoSphere Information Server
バージョン 11 リリース 3

**Cognos BI Reporting -
Content Manager ブリッジを
使用したメタデータの
インポート**



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、31 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC19-4300-00

IBM InfoSphere Information Server

Version 11 Release 3

Importing Metadata by Using the

Cognos BI Reporting - Content

Manager Bridge

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2012, 2014.

目次

| | |
|--|----|
| 第 1 章 ビジネス・インテリジェンス・ツ ールからのメタデータのインポート 1 | 1 |
| ビジネス・インテリジェンス・メタデータ 1 | 1 |
| 第 2 章 InfoSphere Metadata Asset Manager を使用したメタデータのインポー ト 3 | 3 |
| 第 3 章 IBM Cognos BI Reporting - Content Manager ブリッジのリファレン ス 7 | 7 |
| 第 4 章 インポートする資産の ID パラメ ーター 15 | 15 |
| 第 5 章 ビジネス・インテリジェンス資産 | 19 |
| 付録 A. 製品のアクセシビリティ 25 | 25 |
| 付録 B. IBM の窓口 27 | 27 |
| 付録 C. 製品資料へのアクセス 29 | 29 |
| 特記事項および商標 31 | 31 |
| 索引 37 | 37 |

第 1 章 ビジネス・インテリジェンス・ツールからのメタデータのインポート

ブリッジを使用して、ビジネス・インテリジェンス (BI) メタデータを IBM® InfoSphere® Information Server のメタデータ・リポジトリにインポートできます。インポートされるメタデータには、BI レポート、BI モデル、および関連する実装済みデータ・リソース (データベース表など) が含まれます。

ビジネス・インテリジェンス・メタデータ

BI メタデータをメタデータ・リポジトリにインポートする際に、BI レポートと BI モデルのコンポーネント、およびこれらのコンポーネントがどのように関連しているかを調べることができます。BI レポートが参照するデータベース表と列、および列を使用するジョブを追跡できます。

ビジネス・インテリジェンスのレポート作成は、データ結果と情報をパブリッシュ、配布、および検討する手段です。アナリストは、マートやウェアハウスなどのデータ・ソースに対して生成される BI レポートの意味と確実性を理解する必要があります。BI レポートとして配信するコンテンツがいつ最後に更新されたか、また、どの InfoSphere DataStage® and QualityStage® ジョブまたはその他のプロセスが更新中にシーケンス化されたかを把握しなければならない可能性があります。

InfoSphere Information Governance Catalog のリネージュと分析のレポートは、BI レポートの基礎となるソース・データを変換して設定する完全なデータ・フローを表示できるため、データ・ガバナンスとデータ・トラストの要件を満たすことができます。

サポートされる BI ブリッジの完全なリストについては、技術情報『*List of supported bridges for InfoSphere Information Server Version 11.3*』 (<http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27042029>) を参照してください。すべての BI ブリッジで BI レポートがインポートされるわけではありません。

BI レポートは、以下のような BI レポート作成ツール内で作成されるレポート・テンプレートです。

- IBM Cognos® Report Studio または Query Studio
- SAP BusinessObjects Desktop Intelligence、Web Intelligence、または Crystal Reports
- Oracle Business Intelligence Report Publisher
- MicroStrategy
- Microsoft SQL Server レポート ビルダーおよびレポート デザイナー

BI レポートには、BI モデルから表示するための情報の取得およびアグリゲートに使用する、BI 照会および照会メンバーが含まれます。BI モデルは、Cognos Framework Manager や BusinessObjects Designer などのモデリング・ツール内で作成されます。

InfoSphere Information Governance Catalog では、ビジネス・インテリジェンス・レポートにスチュワードとグロッサリー用語を割り当てたり、ビジネス・インテリジェンス・レポートのビジネス名と説明を編集したりできます。

BI メタデータのインポート時に最適な結果を得るには、次の概念と機能を十分に理解してください。

| 質問 | 参照先 |
|--|---|
| インポートを効率的かつ正常に行うにはどのようにすればよいか。 | InfoSphere Metadata Asset Manager を使用した資産のインポートおよび管理 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.mmi.doc/topics/ct_imam_top-level.html) |
| スイート・ツールを使用してどの資産をインポートして使用し、どのように編成するか。 | 共通メタデータ資産 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.metadata.common.doc/topics/ct_common_metadata_assets.html) |
| どの BI 資産をインポートして使用するか。 | ビジネス・インテリジェンス資産 |
| インポートした BI メタデータと、レポートの元となるデータベース表と列を使用する InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブの間の関係を表示して、そのレポートを作成するにはどのようにするか。 | データ・リネージュおよびビジネス・リネージュのレポート作成 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.mdwb.doc/topics/ct_analyzingMetadataRelationships.html) |

第 2 章 InfoSphere Metadata Asset Manager を使用したメタデータのインポート

メタデータ交換サーバーとして指定されるコンピューター上にあるブリッジまたはコネクタを使用して、インポートを行うことができます。接続情報とソース・メタデータに関する情報を指定して、高速インポートまたは管理インポートのいずれかの実行を選択します。

始める前に

共通メタデータ・インポーターまたは共通メタデータ・アドミニストレーターのロールを持っている必要があります。

メタデータのインポートのための前提条件をすべて満たしていることを確認します。

- InfoSphere Metadata Asset Manager とブリッジのインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.productization.iisinfsv.install.doc/topics/wsisinst_install_imam.html)
- InfoSphere Metadata Asset Manager の使用の準備 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.mmi.doc/topics/t_first_steps.html)
- Cognos BI Reporting を使用するための前提条件 - Content Manager ブリッジ

このタスクについて

インポートを実行して、インポート領域を作成します。高速インポートまたは管理インポートのいずれかを実行すると、インポート領域が作成されます。

管理インポートを実行すると、インポートのメタデータ資産を詳細に確認できます。インポートがリポジトリに与える可能性がある影響をプレビューできます。時間を取ってソース・メタデータで問題を修正したり、他のパラメーターを指定して再インポートしたりできます。

高速インポートは、インポート・ソースの内容の信頼性が高い場合は時間の節約になります。デフォルトでは、高速インポートで、インポートの結果としてリポジトリ資産が削除される場合に、メタデータ・リポジトリでの共有の結果をプレビューする必要があります。アドミニストレータは、すべての場合に自動共有を許可するか、またはすべての場合にプレビューを要求するようデフォルトを変更できます。

手順

1. デスクトップ・アイコンをクリックするか、ブラウザでサービス層のコンピューターの URL を入力して、InfoSphere Metadata Asset Manager にログインします。URL は `https://server:port/ibm/iis/imam/console` です。デフォルトのポート番号は、HTTPS の 9443 です。
2. 「インポート」タブで、「新規インポート領域」をクリックします。
3. 「新規インポート領域」ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a. インポート領域の固有の名前と説明を指定します。
 - b. インポートの実行元のメタデータ交換サーバーを選択します。
 - c. ブリッジとコネクターのリストから「**IBM Cognos BI Reporting - Content Manager**」を選択します。
 - d. 「次へ」をクリックします。
4. コネクター・インポートと、HDFS ブリッジを使用したインポートの場合は、データ接続を選択または作成します。選択したデータ接続のプロパティを編集することができます。
 5. Cognos BI Reporting Content Manager ブリッジのインポート・パラメーターを指定します。値フィールドにマウス・カーソルを移動すると、各パラメーターのヘルプが表示されます。
 - a. サーバーからのインポートに対して接続情報を入力した後で、「**接続のテスト**」をクリックします。
 - b. データベースとリポジトリからのインポートでは、インポートする特定の資産を参照して選択します。
 - c. 「次へ」をクリックします。
 6. 必要に応じて、「ID パラメーター」画面で、インポートしているデータベース資産またはデータ・モデルに対して、ID パラメーターを指定します。選択した各パラメーターについて、ヘルプで確認します。「次へ」をクリックします。
 7. インポート・イベントの説明を入力して、高速インポートまたは管理インポートのどちらを実行するか指定します。
 8. 「**インポート**」をクリックします。インポート領域が作成されました。インポートの実行と状況メッセージが表示されます。

長時間のインポートがタイムアウトにならないようにするには、インポート・ウィンドウを開いたままにします。

タスクの結果

インポートが完了したら、管理インポートを実行していた場合は、インポート領域の「**インポート済みステージ**」タブで、インポートされた資産を分析します。

高速インポートを実行していた場合は、次の表にリストされるアクションのいずれかを実行します。

表 1. 高速インポート後の選択肢

| 状況 | 実行するアクション |
|---------------------|---|
| 分析に修正すべき問題が表示されている | 「 インポート済みステージ 」タブが表示されます。分析結果を確認します。必要であれば、段階的なイベントを再インポートします。 |
| 管理設定でプレビューが必要になっている | 「 共有プレビューの表示 」画面が表示されます。インポートの共有の結果をプレビューします。 |

表 1. 高速インポート後の選択肢 (続き)

| 状況 | 実行するアクション |
|----------------------|---|
| 管理設定でプレビューが必要になっていない | 資産はメタデータ・リポジトリで共有されます。「共有済みインポート」タブが表示されます。「リポジトリ管理」タブで資産を参照して、他のスイート・ツールで処理できます。 |

次のタスク

InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブで、インポートしたデータベース表またはデータ・ファイル構造を使用する場合は、表定義を作成する必要があります。データベース表またはデータ・ファイル構造から表定義を作成するには、デザイナー・クライアントで、「リポジトリ」 > 「メタデータ共有」 > 「共有表からの表定義の作成」の順にクリックした後、表定義の作成元とするインポート済み資産を選択します。

第 3 章 IBM Cognos BI Reporting - Content Manager ブリッジのリファレンス

Cognos Content Manager ブリッジの前提条件、よくある質問、トラブルシューティング、およびパラメーター情報。

このブリッジについて

IBM Cognos BI Reporting - Content Manager ブリッジは、Cognos ReportNet および Cognos バージョン 8 から 8.4 および 10 (10.2 を含む) の Cognos BI Reporting Content Manager 機能をサポートします。ブリッジは、ビジネス・インテリジェンス (BI) モデル、BI レポート、および関連する実装済みデータ・リソースの完全なパッケージをインポートします。

注: Cognos 10.2 でブリッジを使用する場合、以下の既知の制限が適用されます。

- 更新されたブリッジを使用してインポートされたメタデータは、同じブリッジの以前のバージョンを使用してインポートされたメタデータと完全に一致しない可能性があります。
- マルチサーバー Cognos 環境から、更新されたブリッジを使用してメタデータのインポートを実行すると、リポジトリへの接続がリセットされてインポートが失敗する可能性があります。

前提条件

よくある質問

トラブルシューティング

10 ページの『インポート・パラメーター』

前提条件

ブリッジを実行する前に、以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

接続

Cognos Content Manager にアクセスする前に、その Web サービスが作動している必要があります。これらの Web サービスのセットアップで、ネットワーク・プロキシおよびファイアウォールを操作する必要がある場合があります。

接続をテストするには、Web ブラウザーを使用して Cognos Content Manager に接続し、これに、クライアント・コンピューターからアクセス可能であることを確認します。URL の例は、`http://localhost:9300/p2pd/servlet` です。Cognos Content Manager が実行中で、アクセス可能である場合、状況ページが表示されます。サーバーの状態は「**実行中**」であるはずです。

認証パラメーターが機能しているかどうかテストするには、Cognos から Web クライアント・ツールを使用して、接続および認証が使用可能であることを確認します。URL の例は、http://localhost/c8/cm_tester.htm です。ここで、localhost は、Cognos から提供された適切な IP 名およびポートに置き換えます。接続および認証が使用可能でなければ、ブリッジは機能しません。

Cognos は、Web サーバーで実行中のゲートウェイまたはディスパッチャーを見つけられることが必要です。この Web サーバーは、大量のデータを処理するためにチャンキングと添付をサポートします。ユーザーと Cognos の間にファイアウォールがなければ、コンポーネントはデフォルトの設定値を使用します。ファイアウォールがある場合、ファイアウォールの外側でのチャンキングをサポートする、少なくとも 1 つの Web サーバーに対するアクセス権を持っている必要があります。

http または https のプロトコル・プレフィックスは、SSL が必要かどうかを示します。Cognos インストール・ディレクトリー内の `configuration\cogstartup.xml` ファイル内でその値を見つけることができます。以下に例を示します。

```
<crn:parameter name="cdk"
<crn:value xsi-Type="xsd:anyURI">
http://localhost:9300/p2pd/servlet/dispatch</crn:value>
</crn:parameter>
```

必要であれば、Cognos 管理者または Cognos サポートに連絡してください。

SSL を使用しての Cognos への接続について詳しくは、次の技術情報 <http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?&uid=swg27038545> を参照してください。

ユーザーの許可

IBM Cognos には、「読み取り」、「実行」、「全探索」、「書き込み」、および「ポリシー設定」の 5 つのタイプの許可があります。これらの許可は、ユーザー、グループ、またはロールに対して、割り当てたり、制限したりできます。

ユーザーには、インポートに含まれるすべてのエントリーの「読み取り」、「実行」、および「全探索」の許可があること (IBM Cognos の資料で多くの場合推奨されている「実行」と「全探索」だけでなく) を確認します。このようなエントリーには、フォルダー、レポート、照会、分析、パッケージ、および接続が含まれます。これらの許可は、読み取り専用であり、Cognos の内容を変更しません。多くのエントリーは、他のものに依存します。例えば、パッケージは接続を使用し、レポートはパッケージを使用するなどです。

IBM Cognos のデータ・ソースは、複数の名前空間から保護できます。環境によっては、データ・ソースを保護するために使用される名前空間が、IBM Cognos Connection へのアクセスに使用される 1 次名前空間ではない場合があります。ブリッジは、複数の名前空間に対して保護されたデータ・ソースに関連付けられたレポートまたは他のエントリーにアクセスする必要がある場合があります。そのような場合は、必要な 1 次名前空間に対する許可を

持つユーザーを指定する必要があります。許可およびセキュリティーの詳細は、IBM Cognos の資料を参照してください。

よくある質問

なぜパッケージの複数のバージョンが Content Manager から抽出されるのですか？

Cognos Framework Manager の中でどのようなデザイン・モデルも編集またはアップデートして、それを、Content Manager の中に Framework Manager パッケージの新規バージョンとしてパブリッシュできます。Cognos 開発のライフサイクルでは、その後、Content Manager の中で、この新規バージョンのパッケージを使用するために、関連するすべてのレポートをマイグレーションすることが必要です。これらのレポートの一部をマイグレーションしない場合、それらのレポートが古いバージョンのパッケージを使用する可能性があります。使用されなくなった古いバージョンのパッケージを削除してください。新規バージョンのパッケージによっては、どのバージョンからもまだ使用されていないものがあります。そのような場合でも、複数のバージョンのパッケージがさまざまなレポートによって使用されるため、インポートされる可能性があります。

どのようにして、Content Manager からパッケージの最新バージョンのみを取り出すことができますか？

インポートするパッケージを 1 つ選択し、「従属オブジェクトの追加」パラメーターを「偽」に設定します。パッケージの最新バージョンのみが取り出されます。

「レポート XXX のモデル参照を取得できませんでした」などのインポート・ログの警告にどう対応したらいいですか？

レポート・メタデータが、レポートまたは照会に基づいた、モデルへの有効な参照を保持していない可能性があります。レポートまたは照会を Report Studio または Query Studio で開いて、何も変更せずに保存してから、レポートまたは照会を再インポートします。レポートまたは照会を保存すると、リポジトリ内の参照が更新されます。

レポートまたは照会のベースとなったモデルが (おそらくは削除されたか、名前変更されたために) アクセス不能になった可能性もあります。この場合、正しいモデルを参照するように、レポートまたは照会を修正してください。

トラブルシューティング

サポートされる場合のメタデータを提供するには、メタデータを Cognos 8.4 または Cognos 10 サーバーから、アーカイブ・ファイル (ZIP ファイルなど) にエクスポートします。

1. Web ブラウザーを使用して、IBM Cognos Connection に接続します。
2. 「起動」 > 「IBM Cognos Administration」をクリックします。
3. 「構成」をクリックします。
4. 「コンテンツ管理」をクリックします。
5. 「新規エクスポート」をクリックします。
6. エクスポート・ウィザードの指示に従って、メタデータをエクスポートします。

- コンテンツ・ストア全体をエクスポートすることは避けてください。特定のフォルダーおよびディレクトリーの内容をエクスポートするには、「パブリックのフォルダーおよびディレクトリーの内容の選択」をクリックし、ウィザードのページに従って、エクスポートするパッケージおよびフォルダーのみを選択します。
 - IBM Cognos 以外の名前空間へのアクセス許可および参照は含めないでください。
 - ターゲット環境でインポートを実行するユーザーに、エントリーの所有権を設定します。
 - デプロイメント・アーカイブを作成する場合、名前にスペースは含めないでください。
7. エクスポートを実行した後、アーカイブ・ファイルをサポート・チームに送信します。エクスポートを実行すると、単一の圧縮ファイルまたはマルチボリュームのアーカイブ・ファイルができます。エクスポートされたアーカイブは、通常、サーバー上の `C:\Program Files\cognos\c8\deployment` フォルダーに存在します。

ご使用のバージョンの Cognos からメタデータをエクスポートする方法について詳しくは、IBM Cognos の資料を参照してください。

インポート・パラメーター

Cognos BI Reporting - Content Manager ブリッジは、以下のインポート構成パラメーターを使用します。

バージョン

必須。インポート元の Cognos サーバーのバージョンを選択します。Cognos 10.1 または 10.2 からインポートする場合は、「Cognos 10」を選択します。

オプション

- **Cognos 10**
- **Cognos 8.4**
- **Cognos 8.3**
- **Cognos 8.1 および 8.2**
- **Cognos ReportNet 1**

ディスパッチャー URL

必須。Framework Manager、Metrics Designer、または SDK による Cognos への要求の送信に使用する URI を入力します。

この値は通常、使用しているインストール済み環境内にあるいずれかのディスパッチャーの外部ディスパッチャー URI に相当します。例えば、`http://Server:9300/p2pd/server/dispatch` です。ローカル・ホストではなく、特定のネットワーク・ホスト名か IP アドレスを使用する必要があります。Framework Manager、Metrics Designer、または SDK クライアントがロード・バランサーやプロキシなどを経由して Cognos に接続されている場合、中継しているロード・バランサーやプロキシなどのホスト名とポートを指定します。詳しくは、ブリッジの前提条件を参照してください。

名前空間

Cognos 認証が構成されていない場合、ブランクのままにします。

名前空間は、認証プロバイダーからユーザー・アカウントのコレクションを定義します。「*Cognos ReportNet Installation and Configuration Guide*」の『*Authentication Providers*』を参照してください。

ユーザー名

Cognos 認証が構成されている場合、使用するユーザー名を入力します。

Cognos 認証が構成されていない場合、ブランクのままにします。

このインポート・ブリッジは読み取り専用で、IBM Cognos の内容には一切影響を及ぼしません。アドミニストレーターとして初期のメタデータのインポートを試行し、全体の内容がアクセス許可の問題なしに取り出せることを安全に確認できます。最終的にはアドミニストレーターが読み取り専用のユーザーまたはグループをセットアップできます。詳しくは、ブリッジの前提条件を参照してください。

パスワード

Cognos 認証が構成されている場合、パスワードを入力します。Cognos 認証が構成されていない場合、ブランクのままにします。

コンテンツ参照モード

Cognos リポジトリの参照時に取得するオブジェクトのタイプを指定します。使用可能なすべてのコンテンツを表示するには、デフォルトの「すべて」を選択します。これにより、パッケージ、フォルダー、照会、およびレポートのツリーが取得されます。

このパラメーターを使用するのは、「インポートする資産」フィールドで資産を参照する場合のみです。検索パスを指定するコンテンツ・ストリングを入力する場合は使用しません。

インポートする資産

必須。インポートする資産を参照して選択するか、1 つ以上の検索パスを指定するコンテンツ・ストリングを入力します。サーバーの全体の内容よりも小さいセットのオブジェクトを常に選択します。これがデフォルトです。

選択を指定したら、必要に応じて、インポート・ウィザードの前のページに戻ってデータ接続を再テストし、選択したすべての資産をインポートする許可があるか確認することができます。

コンテンツ・ストリングは、Cognos からオブジェクトを取り出すために使用される個々の Cognos 検索パスをセミコロンで区切ったリストです。パッケージ、フォルダー、モデル、レポート、照会、およびショートカットのオブジェクト・タイプがサポートされます。完全な検索パスの構文については、Cognos の資料を参照してください。

特定のフォルダーまたはコンテンツ・ルートにあるすべてを取得しようとする検索パスを指定するのは効率的ではありません。インポートの実行が長時間になるか、Cognos サーバーでエラーを引き起こす可能性があります。//* を使用しないで、より具体的な検索パスを指定します。例えば次のような検索パスです。

- `//*[@objectClass='query']`

- @objectClass='report'
- @objectClass='model']

コンテンツ・ストリングの中のセミコロンや円記号 (¥) は、それぞれ、円記号 (¥) を使用してエスケープします。モデルはパッケージ名によって取り出すことができます。例えば、/content/package[@name='GO Sales and Retailers']/model のように指定します。パブリッシュされたバージョンが複数存在する場合、最新のバージョンがインポートされます。

完全な検索パスを使用してレポートを取り出すことができます。Cognos の中で完全な検索パスを見つけるには、レポートのプロパティ・ページで、「検索パスの表示」をクリックします。例えば次のとおりです。

```
/content/package[@name='GO Sales and Retailers']/folder[
@name='Documentation Report Samples']/report[@name='Create a
Prompt']
```

照会で複数のモデルまたはレポートが返された場合、最新のモデルまたはレポートのみがインポートされます。以下の照会では、複数のレポートが返されます。

- //report では、すべてのレポートが返されます。
- /content/package[@name='GO Sales and Retailers']//report では、パッケージ内のすべてのレポートが返されます。

従属オブジェクトの追加

従属オブジェクトを、「インポートする Cognos 資産」パラメーターで選択した Cognos オブジェクトの初期選択に追加できます。デフォルトで、このオプションは選択されています。従属オブジェクトの第 1 レベルのみ追加されます。すなわち、レポート検索パスが指定されると、そのソース・モデルはインポートされますが、そのモデルに従属する他のレポートはインポートされません。

増分インポート

このパラメーターは選択したままにしてください。同じソースから再インポートする際に、ブリッジは、キャッシュされた情報を使用して、前のインポート以降変更されなかったオブジェクトを判別します。変更されたオブジェクトのみが Cognos から取得されます。キャッシュされた情報を使用すると、大規模なインポートのパフォーマンスが向上します。

新規インポートの場合、またはキャッシュが削除されているか破損している場合、指定した選択に関係なく、ブリッジはソースからすべてのオブジェクトをインポートします。

フォルダーの表示

デフォルト値の「無視」を受け入れます。これは、Cognos Framework Manager からのフォルダーを無視します。デフォルトでは、レポートが入った、Cognos サーバー、およびパッケージまたはフォルダーの場所が自動的に収集されます。

トランスフォーマーのインポート構成

Cognos Content Manager データ・ソースと PowerPlay トランスフォーマー・モデルとの間のマッピングを記述した XML ファイルをインポートで

きます。ファイルをメタデータ交換サーバーからインポートするか、またはローカル・コンピューターからインポートするかを選択します。

複数の Content Manager データ・ソースが、単一のトランスフォーマー・モデルから生成された PowerCube を参照できます。ブリッジは、PowerCube とトランスフォーマー・モデルとの間の 1 対 1 のマッピングを前提としています。

各 <Model> エレメントは、.mdl または .pyj のいずれかのファイル拡張子を持つ単一のトランスフォーマー・モデル・ファイルと対応しています。<Model> エレメントは、そのモデルの PowerCube を参照しているすべての Content Manager データ・ソースをリストします。オプションで、Impromptu Query Definition データ・ソースをリストできます。これらは、デフォルト以外の特定のデータベース・タイプを必要とする <iqd> 子エレメントです。構成ファイルには、複数の <Model> エレメントを含めることができます。

XML フォーマットの例:

```
<ImportConfiguration database="Teradata" dbVersion="1.0.0">
  <!-- database attribute specifies default database -->
  <!-- Impromptu Query Definition (IQD) SQL statements -->
  <!-- dbVersion attribute format: major version.minor version.release-->

  <Model path="directory_name\model_name.mdl">

  <!--Transformer model (.mdl or .pyj) -->
  <cmDataSource name="A_Cognos_datasource_name" />

  <!-- List IQD data sources for databases other than default -->
  <iqd name="Customers" database="Oracle" dbVersion="11.1.0"/>
  <iqd name="Products" database="MS SQL Server" dbVersion="8.0.0"/>

  </Model>
</ImportConfiguration>
```

ワーカー・スレッド

ソースからメタデータを非同期で取得するためのワーカー・スレッドの数を指定します。最適なパフォーマンスのためには、パラメーターをブランクのままにして、JVM アーキテクチャーと使用可能な CPU コアの数に基づいたデフォルト値をブリッジが自動的に計算するようにしてください。

取得速度を上げて試してみる必要がある場合は、スレッドの実際の数を 1 から 6 までの数値で指定してください。指定した値が無効である場合、警告が発行され、数値 1 が使用されます。メタデータを非同期でインポートしているときにメモリー不足状態が発生する場合、より小さい数値で試してください。コンピューターに使用可能メモリーが大量にある場合 (例えば、10 GB 以上など)、多くの文書を取得するときに、大きな数値を試すことができます。ただし、数値の設定を大きくしすぎると、リソース競合のためにパフォーマンスが低下するおそれがあります。

結合のインポート

BI モデルで定義されている結合をインポートできます。デフォルトでは、結合はインポートされません。

レベルのインポート

レベルおよび階層をインポートできます。オプションが選択されている場

合、BI モデルで定義されているレベルおよび階層がインポートされます。デフォルトでは、それらはインポートされません。

メタデータ整合性検査

選択したメタデータをメタデータ・リポジトリにインポートする前に、それらに対して整合性検査を実行します。資産がメタデータ・リポジトリにインポートされる時、または他のツールで使用される時に問題が発生するような方法で、ソース・ツールを使用してメタデータを保存してしまう可能性があります。例えば、外部キーが主キーまたは代替キーと関連していない場合があります。場合によっては、メタデータに意味的な整合性がないために、ブリッジがそれをインポートできないことがあります。

メタデータ整合性検査により、警告およびエラーがログ・ファイルに記録されます。

基本検査

これがデフォルトです。メタデータを検証するのに必要な最小限の整合性検査を実行します。これには、欠落している関係や、主キーまたは代替キーと関連のない外部キーがないか調べる検査が含まれます。

場合によって、基本検査は必要以上に厳密である場合があるため、ある種のエラーまたは警告は無視してかまいません。

詳細検査

基本検査に加えて、インポートするメタデータのタイプに固有の、より高度なセマンティック・チェックを実行します。このレベルを使用できるのは、メタデータを検証する機能がソース・ツールにならない場合です。

検査しない

使用に際して、細心の注意が必要です。このオプションを選択すると、重複または無効な ID がインポートされる可能性があり、スイート・ツールおよびメタデータ・リポジトリの使用時に重大な問題が発生する場合があります。

第 4 章 インポートする資産の ID パラメーター

データベース資産、論理データ・モデル、または物理データ・モデルをインポートするときに、ID パラメーターの値を指定します。ID の値を指定すると、メタデータ・リポジトリでの重複資産を回避するのに役立ち、資産を間違っ上書きすることがなくなります。

ID パラメーターに一貫性のある値を使用すると、スイート・ユーザーはジョブの作成、スチュワードの指定、用語への割り当てなどのタスクで使用する資産を容易に特定できます。

InfoSphere Metadata Asset Manager を使用してデータベース資産、論理データ・モデル、または物理データ・モデルをインポートするときに、「ID パラメーター」画面で値を指定します。

データベース資産

リモート・データベースとリポジトリからメタデータをインポートするブリッジとコネクタは、インポートしている資産を含むホスト・システムとデータベースについて、不完全、または一貫性のない情報を提供することがあります。

データベース表の ID は次の要素で構成されています。

- ホスト・システム名
- データベース名から構成されるデータベース ID、DBMS 名、および DBMS サーバーのインスタンス名
- データベース・スキーマ名
- データベース表名

このため、ホスト名、データベース名、データベース管理システム (DBMS) 名、および DBMS サーバー・インスタンス名は、表およびその表が含むスキーマの ID の重要な部分です。2 つの異なる方法で同じデータベース資産をインポートしようとして、それぞれの方法で別の DBMS 名が生成されると、メタデータ・リポジトリに重複資産が作成される可能性があります。厳密には別の ID であるが、同一の内容を持つ、または同じ子資産を含む資産は、潜在的な重複資産です。

重複を回避して、データベース資産が適切に特定されるようにするには、インポート処理中に ID パラメーターの値を指定します。ID パラメーターは、インポート元とは異なるホスト・システム、データベース、または DBMS に、インポートする資産を関連付けようとするときにも役立ちます。例えば、テストと実動で使用するホスト・システムとデータベースで、資産を特定する場合があります。ホスト・システム、データベース、およびスキーマのパラメーターでは、名前を入力するか、メタデータ・リポジトリ内に既にあるホスト、データベース、またはスキーマを選択して、インポートした資産に関連付けることができます。

インポートに選択したブリッジまたはコネクタによっては、データベース資産に次の ID パラメーターの値を指定できます。

ホスト・システム名

データベースをホストするコンピューターの名前。データベースからインポートする場合、ソース・コンピューターの名前と異なる名前を指定できます。例えば、開発時または実動時にこのデータベースをホストするコンピューターを指定することもあります。

データベース名

インポートされたスキーマと表を含むデータベースの名前。ソース・データベースの名前と異なる名前を指定できます。

DBMS 名

データベースをホストする DBMS の名前。DBMS 名は、ターゲット・データベースの ID の一部分です。ソース・データベースをホストする DBMS と異なる DBMS を指定できます。DBMS 名は、データベース名として入力する値に適合している必要があります。

DBMS サーバー・インスタンス名

DBMS サーバー・インスタンスが存在する場合はその名前。データベース管理システムによっては、DBMS サーバー・インスタンスの概念を持たないものもあります。DBMS サーバー・インスタンス名は、ターゲット・データベースの ID の一部分です。ソース・データベースをホストするのは異なる DBMS サーバー・インスタンスの名前を指定できます。DBMS サーバー・インスタンスの名前は、データベース名として入力する値に適合している必要があります。

スキーマ名

インポートされた表が属するスキーマの名前。

論理データ・モデルおよび物理データ・モデルの資産

物理データ・モデルをデザイン・ツールからインポートする場合、その物理データ・モデルからデータベース・スキーマとデータベース表を作成することもできます。これは、ジョブで使用できるように、これらの共有表から表定義を作成したい InfoSphere DataStage and QualityStage ユーザーにとって必要です。ホスト・システム、データベース、およびオプションで DBMS の ID パラメーターを指定して、データベース・スキーマの有効な ID を作成します。物理データ・モデルとデータベース・スキーマの両方が、インポート時にメタデータ・リポジトリに保管されます。

メタデータ・リポジトリで、論理データ・モデルまたは物理データ・モデルの ID は、モデルの名前と名前空間の値の組み合わせです。モデルをインポートするときは、「ID パラメーター」画面で「**モデル名前空間**」パラメーターの値を指定します。

値にはどのようなものでも指定できます。値は実際の名前空間の構成と対応していなくても構いません。名前空間の値を入力することも、メタデータ・リポジトリ内にある既存の名前空間の値を参照して使用することもできます。

ユニークな名前空間の値を指定することで、同じ名前を持つ 2 つの異なる論理モデルまたは物理モデルを区別することができます。論理データ・モデルと物理データ・モデルを同時にインポートする場合、指定した名前空間の値がそれぞれに使用されます。

重要: InfoSphere Information Server バージョン 8.7 でデザイン・ツール・ブリッジを使用して作成されるインポートでは、インポートされる論理データ・モデルまたは物理データ・モデルの ID に、モデル・ファイルのパスが入った名前空間値が含まれています。同じデータ・モデルをバージョン 8.7 でインポートした場合は、以下のいずれかのアクションを行ってください。

- 新規データ・モデルを以前にインポートしたデータ・モデルとマージするには、元のインポートで自動的に指定されたものと同じ値を「**モデル名前空間**」に使用します。この名前空間値をコピーするには、以前にインポートした論理または物理データ・モデルを参照して、「**リポジトリ管理**」タブでモデルを表示します。
- 現行のデータ・モデル用に別の ID を作成するには、以前にインポートしたデータ・モデルの名前空間値とは異なる値を「**モデル名前空間**」に指定します。現行のデータ・モデルが固有の資産としてインポートされ、以前にインポートされたモデルはメタデータ・リポジトリ内に残ります。必要に応じて、共通メタデータ・アドミニストレーターは、以前にインポートされたデータ・モデルを「**リポジトリ管理**」タブで削除できます。

第 5 章 ビジネス・インテリジェンス資産

ビジネス・インテリジェンス (BI) 資産は、データのビジネス・ビューを提供するレポートおよびモデルを編成するために BI ツールによって使用されます。こうした資産には、BI レポート、BI モデル、BI コレクション、キューブがあります。

ブリッジを使用して、IBM Cognos や SAP BusinessObjects などのツールから BI 資産をインポートすることができます。

BI 資産をインポートするときには、BI レポートのベースとなるデータベース表も同時にインポートするようにしてください。そのようにすると、InfoSphere Information Governance Catalog を使用して、データベース表間の関係、データベース表を使用するジョブ、および表に基づく BI レポートを表示するデータ・リネージュ・レポートを作成することができます。

InfoSphere Metadata Asset Manager を使用して、BI 資産の表示と削除、および重複する BI 資産の管理を行うことができます。

資産タイプ

InfoSphere Information Server のメタデータ・リポジトリに格納される BI 資産の種類とその定義を次の表に示します。

表 2. BI 資産


| 資産タイプ | 定義 | 資産の ID の構成要素 | 含まれる資産タイプ |
|---|---|--|-----------|
|  BI サーバー | <p>BI ツールが単一のホスト・コンピューターで複数のサーバーをサポートする場合、BI サーバーの値はソース・ツール・サーバーの名前です。BI ツールがコンピューターごとに 1 つのサーバーをサポートする場合、BI サーバーの値は、ホスト・システムの名前または IP アドレスです。</p> <p>BI サーバーは、InfoSphere Information Governance Catalog、および InfoSphere Metadata Asset Manager の「インポート」タブに表示されます。</p> | <ul style="list-style-type: none">BI サーバー名 | BI フォルダー |

表 2. BI 資産 (続き)




| 資産タイプ | 定義 | 資産の ID の構成要素 | 含まれる資産タイプ |
|---|---|---|---|
|  BI フォルダ | <p>ソース・ツールの BI モデル、BI レポート、またはそれら両方を含むフォルダ構造。BI フォルダは他の BI フォルダを含むこともできます。</p> <p>BI フォルダは、InfoSphere Information Governance Catalog、および InfoSphere Metadata Asset Manager の「インポート」タブに表示されます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> BI フォルダ名 BI サーバーの ID (サブフォルダの場合は、そのサブフォルダを含む BI フォルダの ID) | <p>BI フォルダ、BI モデル、および BI レポート</p> |
|  BI モデル | <p>BI アプリケーションに関連する BI データ・コレクション・ビューをグループ化したものです。</p> | <ul style="list-style-type: none"> BI モデル名 BI フォルダの ID | <p>キューブ、BI コレクション、BI 結合、BI 階層、および BI フィルター</p> |
|  BI コレクション | <p>データベースおよびファイルに保管されたデータのビューを提供するデータ構造。次元モデリングでは、これらの構造はディメンション表およびファクト表として知られています。BI コレクションは、BI レポートのデータ・ソースです。</p> | <ul style="list-style-type: none"> BI コレクション名 BI コレクションの名前空間 コレクションを含む BI モデルの ID (サブコレクションの場合は、そのサブコレクションを含む BI コレクションの ID) | <p>BI コレクション・メンバー、BI レベル、BI 階層、および BI フィルター。BI コレクションは他の BI コレクションを含むことができます。</p> |

表 2. BI 資産 (続き)





| 資産タイプ | 定義 | 資産の ID の構成要素 | 含まれる資産タイプ |
|--|--|--|--------------------------|
|  BI コレクション・メンバー | <p>データベース列から予想されるデータ値の基本的な抽象化。BI コレクション・メンバーは、それらのメンバーを所有するコレクションの構造を定義します。メンバーには、レギュラーとメジャーの 2 種類があります。レギュラー・メンバーは、メンバーを所有するコレクションの特性および意味を記述するディメンション属性です。メジャーは、ファクト・コレクションの測定エンティティを定義する分析値を表します。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • BI コレクション・メンバー名 • BI コレクションの ID | |
|  BI レベル | <p>BI 階層の順序関係における論理ステップを定義する資産。BI レベルは、相互に関連し、1 つの論理単位として機能する、同じ BI コレクションの 1 つ以上の BI コレクション・メンバーから構成されます。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • BI レベル名 • BI コレクションの ID | BI レベル・エレメント |
|  BI レベル・エレメント | <p>BI コレクション・メンバーをコレクション内の特定のレベルに割り当てる結合クラス。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • BI コレクション・メンバーの ID • BI レベルの ID | |
|  キューブ | <p>同じ次元数を共有する、一連の関連した分析値から成る BI モデルのサブセットです。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • キューブ名 • キューブの名前空間 • BI モデルの ID | キューブ・ディメンションおよびキューブ・メジャー |

表 2. BI 資産 (続き)










| 資産タイプ | 定義 | 資産の ID の構成要素 | 含まれる資産タイプ |
|--|---|---|-----------|
|  キューブ・ディメンション | キューブの分析値に関連した、BI コレクション内のディメンションにキューブを接続する結合クラス。キューブ・ディメンションは、ディメンションの派生元 BI コレクションと、キューブの関連ディメンション階層を参照します。 | <ul style="list-style-type: none"> • キューブの ID • BI コレクションの ID | |
|  キューブ・メジャー | メジャーである BI コレクション・メンバーにキューブを接続する結合クラス。 | <ul style="list-style-type: none"> • キューブの ID • BI コレクション・メンバーの ID | |
|  BI フィルター | BI コレクションを通じて表示されるソース・データに対するフィルター制約。フィルターは、ローカルかグローバルのいずれかです。ローカル・フィルターは単一の BI コレクションによって所有されます。グローバル・フィルターは、BI モデルや 1 つ以上のコレクションによって所有されます。 | <ul style="list-style-type: none"> • BI フィルター名 • BI フィルターの名前空間 • 他のモデルを含む BI モデルの ID または他のコレクションを含む BI コレクションの ID のいずれか。 | |
|  BI 階層 | BI コレクション内のデータの順序または関係を定義する編成構造を定義します。 | <ul style="list-style-type: none"> • BI 階層名 • BI 階層の名前空間 • 他のモデルを含む BI モデルの ID または他のコレクションを含む BI コレクションの ID のいずれか。 | BI 階層メンバー |
|  BI 階層メンバー | 階層構造の中で BI レベルを順序付ける資産。 | <ul style="list-style-type: none"> • BI 階層の ID • BI レベルの ID | |

表 2. BI 資産 (続き)

| 資産タイプ | 定義 | 資産の ID の構成要素 | 含まれる資産タイプ |
|---|---|---|-------------|
|  BI 結合 | 2 つのデータベース表を結合する (物理結合) 資産、または 2 つの BI コレクションを結合する (論理結合) 資産。物理結合は BI コレクションのデータ・ソースを定義し、論理結合はファクト・コレクションとディメンション・コレクションの間のスター・スキーマで使用されます。 | <ul style="list-style-type: none"> • BI 結合名 • BI 結合条件 • BI モデルの ID | BI レポート照会 |
|  BI レポート | データベースまたは BI モデル内の情報に基づくビジネス・インテリジェンス・レポート。 | <ul style="list-style-type: none"> • BI レポート名 • BI フォルダの ID | BI レポート照会 |
|  BI レポート照会 | データベースまたは BI モデルに対する照会。 | <ul style="list-style-type: none"> • BI レポート照会名 • BI レポート照会の名前空間 • BI レポートの ID | BI レポート照会項目 |
|  BI レポート照会項目 | BI レポート照会の列を定義する資産。 | <ul style="list-style-type: none"> • BI レポート照会項目名 • BI レポート照会の ID | |

付録 A. 製品のアクセシビリティ

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況についての情報を入手できます。

IBM InfoSphere Information Server 製品のモジュールおよびユーザー・インターフェースは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況の詳細は、http://www.ibm.com/able/product_accessibility/index.html の IBM 製品のアクセシビリティ情報をご覧ください。

アクセシビリティ対応資料

IBM Knowledge Center には、製品のアクセシビリティ対応資料が用意されています。IBM Knowledge Center では、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で資料を提供しています。IBM Knowledge Center では XHTML を使用しているため、使用しているブラウザに設定されている表示形式で資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーやその他の支援技術を使用して、資料にアクセスすることもできます。

IBM Knowledge Center にある資料は、PDF ファイルでも提供されますが、こちらは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM のアクセシビリティに対する取り組み

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントの詳細については、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。

付録 B. IBM の窓口

お客様サポート、ソフトウェア・サービス、製品情報、および全般情報について、IBM と連絡を取ることができます。また、製品についてのフィードバックを行うことができます。

次の表に、お客様サポート、ソフトウェア・サービス、研修、製品およびソリューション情報に関するリソースをリストしています。

表3. IBM リソース

| リソース | 説明と場所 |
|---------------|--|
| IBM サポート・ポータル | サポート情報は、 www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server で、製品と関心のあるトピックを選択してカスタマイズできます。 |
| ソフトウェア・サービス | ソフトウェア、IT、およびビジネス・コンサルティング・サービスについての情報は、「ソリューション」サイト www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja にアクセスしてください。 |
| My IBM | www.ibm.com/account/jp/ja/ の「My IBM」サイトでアカウントを作成し、特定のテクニカル・サポートのニーズに合うように、IBM Web サイトおよび情報へのリンクを管理できます。 |
| 研修と認定 | 個人、法人、および公共団体向けに、IT 技術の習得、維持、最適化を目的としてデザインされた技術研修およびサービスについては、 http://www.ibm.com/training にアクセスしてください。 |
| IBM 担当員 | ソリューションについて IBM 担当員と連絡を取るには、 www.ibm.com/connect/ibm/us/en/ にアクセスしてください。 |

付録 C. 製品資料へのアクセス

資料は、オンラインの IBM Knowledge Center、オプションでローカルにインストールしたインフォメーション・センター、PDF のブックといったさまざまな形式で提供されます。製品クライアント・インターフェースから、オンラインまたはローカルにインストールしたヘルプに直接アクセスすることができます。

IBM Knowledge Center は、InfoSphere Information Server の最新情報を探すのに最適な場所です。IBM Knowledge Center には、スイートのすべての製品モジュールの全資料のほか、ほとんどの製品インターフェースのヘルプも含まれています。IBM Knowledge Center は、インストール済み製品から開くことも、Web ブラウザーから開くこともできます。

IBM Knowledge Center へのアクセス

オンライン資料にアクセスするには、さまざまな方法があります。

- クライアント・インターフェースで、画面右上の「ヘルプ」リンクをクリックします。
- F1 キーを押します。F1 キーを押すと、通常、クライアント・インターフェースの現行コンテキストを説明するトピックが開きます。

注: F1 キーは、Web クライアントでは機能しません。

- 製品にログインしていないときなどに、Web ブラウザーにアドレスを入力します。

すべてのバージョンの InfoSphere Information Server の資料にアクセスするには、以下のアドレスを入力します。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ/>

特定のトピックにアクセスするには、製品 ID とバージョン番号、資料プラグイン名、および URL 内のトピック・パスを指定します。例えば、バージョン 11.3 用のこのトピックの URL は以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html

ヒント:

Knowledge Center には、以下の短縮 URL もあります。

<http://ibm.biz/knowctr>

特定の製品ページ、バージョン、またはトピックの短縮 URL を指定するには、短縮 URL と製品 ID の間にハッシュ文字 (#) を使用します。例えば、すべての InfoSphere Information Server 資料の短縮 URL は、以下のとおりです。

<http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ/>

また、前述のトピックの URL を少し短くした短縮 URL は、以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

```
http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.common.doc⇒  
common/accessingiidoc.html
```

ローカルにインストールした資料を参照するヘルプ・リンクの変更

IBM Knowledge Center には、最新版の資料が含まれています。一方、インフォメーション・センターとしてローカル版の資料をインストールして、それを指すようにヘルプ・リンクを構成することも可能です。ローカルのインフォメーション・センターは、お客様の企業でインターネットへのアクセスが提供されていない場合に便利です。

インフォメーション・センターのインストール・パッケージに付属するインストール手順を使用して、任意のコンピューターにそれをインストールします。インフォメーション・センターをインストールして開始した後、サービス層のコンピューターで **iisAdmin** コマンドを使用して、製品の F1 とヘルプ・リンクで参照する資料の場所を変更できます。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

Windows

```
IS_install_path¥ASBServer¥bin¥iisAdmin.bat -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

AIX® Linux

```
IS_install_path/ASBServer/bin/iisAdmin.sh -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

ここで、<host> はインフォメーション・センターがインストールされたコンピューターの名前、<port> はインフォメーション・センターのポート番号です。デフォルトのポート番号は 8888 です。例えば、デフォルト・ポートを使用するコンピューター `server1.example.com` 上の URL 値は、`http://server1.example.com:8888/help/topic/` になります。

PDF およびハードコピー資料の入手

- PDF ファイルのブックはオンラインで利用可能で、サポートの文書 <https://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27008803&wv=1> からアクセスできます。
- IBM 資料は、オンラインでダウンロード、または IBM 担当員を通じてご注文いただけます。資料をオンラインでダウンロードするには <http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss> の IBM Publications Center にアクセスしてください。

特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されて

います。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie または永続的な Cookie を使用場合があります。製品またはコンポーネントがリストされていない場合、その製品またはコンポーネントは Cookie を使用しません。

表 4. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用

| 製品モジュール | コンポーネントまたは機能 | 使用される Cookie の種類 | 収集するデータ | データの目的 | Cookie の無効化 |
|--|---|---|---------|---|-------------|
| すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分) | InfoSphere Information Server Web コンソール | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | ユーザー名 | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |

表 4. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用 (続き)

| 製品モジュール | コンポーネントまたは機能 | 使用される Cookie の種類 | 収集するデータ | データの目的 | Cookie の無効化 |
|--|--|---|---|--|-------------|
| すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分) | InfoSphere Metadata Asset Manager | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | 個人情報でない | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 拡張されたユーザーのユーザビリティ シングル・サインオン構成 | 無効にできない |
| InfoSphere DataStage | Big Data File ステージ | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 デジタル署名 セッション ID | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 | 無効にできない |
| InfoSphere DataStage | XML ステージ | セッション | 内部 ID | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |
| InfoSphere DataStage | IBM InfoSphere DataStage and QualityStage Operations Console | セッション | 個人情報でない | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |
| InfoSphere Data Click | InfoSphere Information Server Web コンソール | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | ユーザー名 | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |
| InfoSphere Data Quality Console | | セッション | 個人情報でない | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 | 無効にできない |
| InfoSphere QualityStage Standardization Rules Designer | InfoSphere Information Server Web コンソール | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | ユーザー名 | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |
| InfoSphere Information Governance Catalog | | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 内部 ID ツリーの状態 | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 | 無効にできない |
| InfoSphere Information Analyzer | InfoSphere DataStage and QualityStage Designer クライアントの中の Data Rules ステージ | セッション | セッション ID | セッション管理 | 無効にできない |

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライ

ン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Itanium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

お客様サポート
連絡先 27

[カ行]

管理インポート 3
キューブ 19
高速インポート 3

[サ行]

サポート
お客様 27
商標
リスト 31
製品資料
アクセス 29
製品のアクセシビリティ
アクセシビリティ 25
ソフトウェア・サービス
連絡先 27

[タ行]

特記事項 31

[ハ行]

ビジネス・インテリジェンス資産 19
ビジネス・インテリジェンス・メタデータ
1
ブリッジ・パラメーター
Cognos Content Manager ブリッジ 7

[マ行]

メタデータのインポート 3
BI メタデータ 1
ID 値の指定 15

B

BI 資産 19
BI メタデータ 1
BI モデル 19
BI レポート 19

C

Cognos Content Manager ブリッジ 7

I

ID パラメーター 15
InfoSphere Metadata Asset Manager
資産のインポート 3



Printed in Japan

SC43-1001-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21